


金珠狼

押し
ママ

Re:憧れだった西村の母ちゃん
で童貞を卒業した話





俺の名前は
木下カズヤ




あー
ダル……

日々の仕事で
ヘトヘトになってる
しがない
リーマンである

ん？

うお……
ユースケやん



その日学生時代の親友
西村ユースケから
数年ぶりに連絡があった

内容は
今度結婚する
と言う事

やるな
あいつ

そっぴや
モテた
もんなく…

そして
結婚式に
出席してくれ
との事だった

その時——
ふと頭をよぎったのは

親友の顔でなく

そいつの
母ちゃんの
顔だった

今から十数年前

中学生だった俺は
放課後西村の家に
入り浸っていた

当時携帯ゲームの
某狩りゲーが流行ってた
時期で



学校帰りに友達同士で
一緒に一狩りするものが
日課になっていた

西村の家は
学校から近く
とりわけ大きな家だった
ので

中学時代は
友達連中がよく
たまり場になっていた

ただ俺にとって
西村の家に頻繁に通う
理由はゲームだけでは
なかった

その理由とは——

か
ち
わ

そわ

そわ



いらっしやーい

差し入れ持って
来たわよ

西村の母ちゃんが
超絶美人だった
からである

当時の年齢は
35歳ぐらい
だったが

その若さと
美貌は女優と
比べても遜色無い
レベルだった

こ……
コンチャース

お邪魔して
まゝす

ケーキ
焼いたから
食べて

ユウスケが
一人っ子の
せいか

あ……
アザっす

友達と賑やかに
してるのが好きらしく
毎回俺達は歓迎された

そして思春期真ったただ中の俺はママさんの巨乳に興味津々で

じ〜..

隙あらば彼女のオツパイをガン見していたのだった

そして西村の家から帰ると

たまらず覚えてたのオナニーをする

オカズは勿論ママさんだ

当時の俺は性欲マックスで1日4〜5回イケたが

その内俺は段々と自慰だけでは物足らなくなっていた

そんなモンモンとした
救いの無い日々を
過ごすうちに

俺は一つの
ある決意をする

...

そんな
ある日

よ、
ユースケ

今日の放課後
なんだけど...

ワリ
今日はちょっと

部活の方に
顔出さねーと
マズいんだわ

モン○ンは
また今度な

とうとうツレを
決行する日が来る

ユースケは今日
家にいない……!!



あ：俺：
あの：実は：

ユウスケ君じゃなくて
ママさんに用があつて
来ました…！

え？？
ナニナニ？
どうしたの？

お…
俺…

俺の決意とは
そう――

ずっと
ママさんの事が

ママさんに
告白する事だった

好きでした！

時間が
止まったか
の様に

その場に
長い間
沈黙が
続いたが

先に口を
開いたのは
ママさん
だった

あ……

あのね
……

気持ちは
すごい嬉しいけど

私オバさんよ？
結婚もしてるし

カズくんかっこいいから
同じ年位の彼女
すぐにできるわよ

だから……
ゴメンね

今考えれば
ママさんの対応は
当たり前なの
ものだったが

当時の俺は
アホだったので
それでも

怯まず彼女に告白し続ける

そ：
それでも俺：

ママさんの事
大好きなんス

ええ〜…

我ながら
ママさんの迷惑を
省みない本当に
イタイ行為だった

う〜ん
本当に困ったなあ…

カズ君カワイイし
全然悪い気はしないけど

流石に息子の
友達ってのはね…

下手に傷つけて
ユウスケとの関係を
悪くさせたくないし…

やっぱり丸く収めて
諦めてもらうには

アレしか…

…
じゃあさ…

1回キスして
あげるからさ
それで勘弁してくれない？

こういう場合は
もうしようがないよね…

そのままさかの
提案に俺は2つ返事で
オーケーし

じゃあ
イクね？

そして――

ぴりぴり…

うおおお…！

ママさんは
ゆっくり大人のキスを
してくれた

チュ

初めて味わう
女性の舌に
俺は

チュ　　い　　い…

脳の奥が
痺れる
刺激的な
感覚を覚えた

スゲー！

俺ママさんと
キスしてる！

こうして念願
叶った俺は

チュ...

メツチャ気持ち
ええ〜！

大喜びで
彼女の舌を吸った

ズ...
い...

無論俺のチンコは

ズ...

生涯一バッキバキに
なっていた

も〜：
カズ君激し過ぎw

俺にとって夢だった
キスが終わり

——と言って
ケタケタ笑った



そして
彼女の視線は

……

自然と俺の
テントに向く

アハハ……

やっぱり
男の子って
元気だねえ

若いってイイなあ

俺はその言葉に
興奮して

マ……ママさんっ……

カッパ

わ

びっ……

俺っ……!!

思わず彼女を強く
抱きしめてしまった


わあ……
男の人の匂い
久々……

そっか、
そういうばあの人と
しばらくエッチして
ないなあ……

ね……?


ハ……
ハイっ!?

ス……




私本当に
オバさんだよ…？

それでも
私の事好きなの？




その問いに間髪
入れずに



す…好きです！

ママさんの事
大好きです！

——とアホ丸出しの
顔でそう言うのと



じゃあ
一回だけ…

一回だけカズ君の
彼女になって
あげるね？

今日だけ
だよ…？

こうして俺の童貞を
卒業する日が
その日に決まった

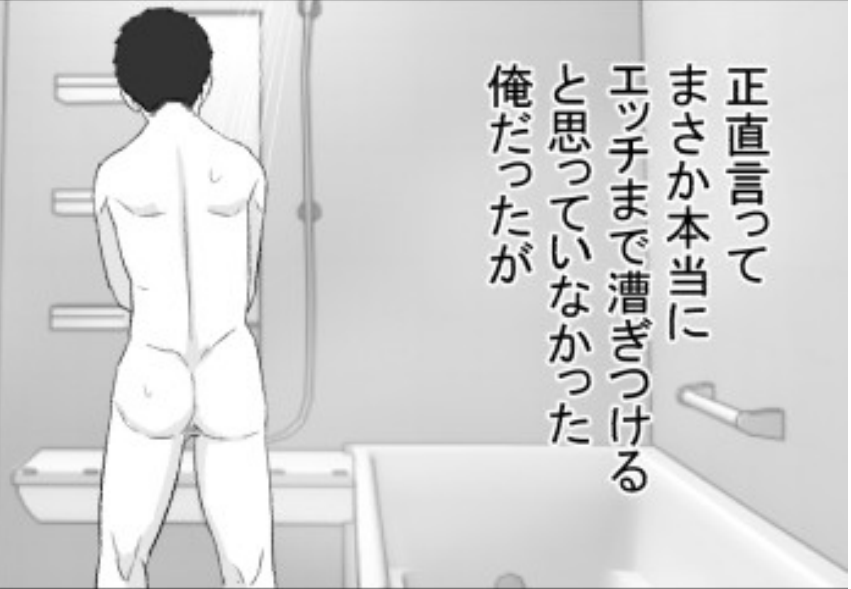
とりあえずまずは
汗を流してから
と言う事で

先に俺がシャワーを
借りる事になった



正直言つて
まさか本当に
エッチまで漕ぎつける
と思つていなかつた
俺だったが

ママさんに失礼が
無い様に入念に
チンコはよく洗つた



シャワーを浴びた後
夫婦の寝室で
待つように言われ

俺はママさんがシャワーを
浴びてくるのをチンコを
ギンギンにさせながら
心待ちにしていた

そして——

がチャ...

ドキ

ドキ..

...




ママさんが
恥ずかしそうに
してタオル一枚
で現れる

本当に
今日だけだよ？

特別だからね？


——と念を
押した後

ゆっくり彼女は
最後の一枚を脱ぎ捨てた




うおおおお！

俺が何度も
盗み見していた
大きなオツパイ



そしていつも
オナニーする時
思い描いていたアソコは

濃い目のアンダーヘアが
生い繁っていた



ネットで見慣れたハズの
女体だったが実際生身を
前にすると頭が真っ白になり

……！

そして童貞だった俺はソレを
どう扱ったら良いか分からず
思考停止して固まってしまった

するとママさんは

ホラ

男の子なんだから

リード
しないと

——と言ってオッパイを
触らせてくれた

うおおお
おおおお

生まれて初めて触った
母親以外のオッパイは

超柔らかー

とても柔らかくて
熱を帯びていた

そして——

じゃ・じゃあ
オッパイ吸っても
いいですか？

恐る恐るそう訊くと

うん いいよ♡

てかー々訊かなくて
いいってばw

と笑って
そう答えて
くれた



うひょろろ♡

あ♡

せしん...ニうして
彼女の許可が
出たので



乳首を転がしたり

シゅッ



俺は遠慮なく
しゃぶったり

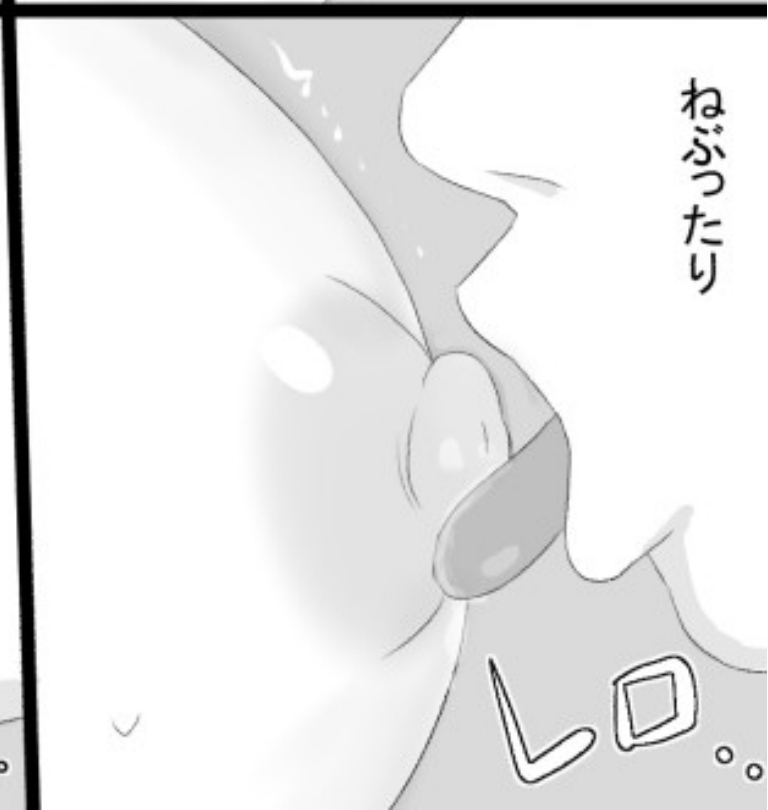
ちゅッ



心行くまで

彼女のオッパイを
堪能した

グッ



ねぶったり

ロッ

暫くママさんの
オッパイを堪能
していると

ね？

え？



そろそろコッチ
の方は触って
くれないの？

!?

そうやって彼女は
俺の手を自らの
股間に持って行った



正直童貞にとって
マンコの愛撫は
ハードルが高すぎて
スルーしていたが

ひよ——
——ッ!?

まさかママさんが
自分から触らせて
くれるとは
思ってたなかったので
心臓がバクバクした

ママさんのマンロは
すでにトロトロで
ものすごく熱かった

今思えばオッパイを
イジッてる時結構
感じてたんだと思う



あ…
あの…

「しどろやったら
……？」

カズ君の
やりたいように
動かしていいのよ



そう聞いても一向に
やり方が思いつかなかったの

恐る恐る動かしてみると

ママさんは一瞬
ビクっとなって

んうん

せつ

声を荒げた



長年憧れ続けた
あのママさんが

くっ...

あう...

せっ...

せっ...

俺の愛撫に喘いで
反応してくれてる事に
めちゃくちゃ興奮した

ママさんのマンコは
濡れやすい体質らしく

ニチャ...

ニチャ...

俺が指を動かすたびに
愛液が溢れ出た

それでも童貞の俺は
塩梅が分からないので
ママさんに具合を訊くと

ど...
どうですか...?

イイッ...♡

せっ...

すごく気持ち良いよ
カズ君っ...♡

——と返ってきたので
俺は安堵した



そして
暫くの愛撫の後

ママさんは恍惚な
表情で

じゃ そろそろ
入れよっか

ゴム着けてあげるから
タオルとって♡

——と言った

俺が慌てて
タオルを取ると

わ

彼女は声を
上げて驚いた

ウソ……？
こんなに大きいの？

あの人より
全然大きい……

どうやら俺のチンポが

想像以上に大きかった
らしい

それから
彼女は
コンドームを
取り出すと



勃起し過ぎてカウパーで
ベトベトになった俺のチンポに
着けてくれたのだが

サイズが合わなかった
らしく苦戦していた

ようやく着けてもらった
初めてのコンドームは

これが

ギチギチ過ぎて
ちよつと痛かった

それからいざ本番となり
ママさんに誘われるがまま

おいで♡

ベッドの上で彼女に
覆いかぶさる
形となった

そしてやり方の
分からない俺の為に

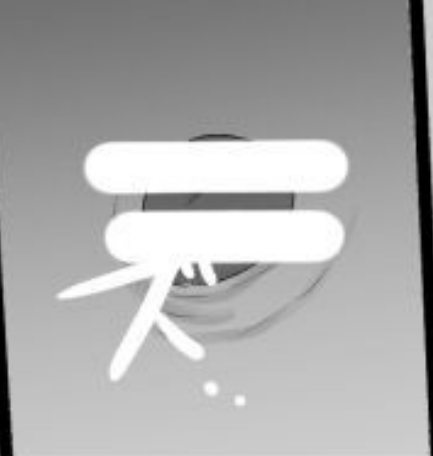
こんな大きいの
入るかな…？

チンポを自らの
アソコに誘導
してくれた



本当に大っき...

ああ...



うおお...
これが...



ツ...

せり...



入っ...
熱っ...



俺は憧れの
西村の母ちゃん

い...

童貞を
卒業した

その時俺の頭を
よぎったのは



小学校から憧れ続けた
ママさんの笑顔と

この数年オカズに
し続けた



彼女のエロい
身体だった

そんな彼女に挿入している
この状況で



否が応でも俺は
興奮と感動を
抑える事ができなかった

ふ...うん

そんな中ママさんが
苦しそうだったので

だ：大丈夫ですか？

——と不安になって
訊いてみると

だ…
大丈夫っ…

ゆっくり
動いてみて
っ…

そして俺は
言われたとおりに
チンポをゆっくり前後
させる

ズ…

ヤ：バ
気持
良過ぎる！

せ…

あ…

相変わらず
ママさんの様子は
苦しそうだったが

ズ…

結局性欲には
勝てずマンコを
突きまくった

あ…

ほ…

せ…

ヤ……
ダ……

ウツ……
でしょ……？

カズ君とのセックス
……



あの人と
全然
違う……！

息子の同級生
相手なのに……



なんで私
こんな
感じて……？！

ひん……

んん

そして
童貞の初めての
セックスが

そんなに
保てるハズ
もなく

程なくして俺の絶頂で
終了した

せつ...

あう...

チンポを
引き抜くと

ヌポ...



ママさんのマンコは
くっぽり穴が開いてて

非常にエロかった

はら...♡

はら...♡

ほ...♡



セックスが終わり
賢者モードで
冷静になった俺は

この人との
関係もこれっきり
なのかなと

そう考え軽く
落ち込んでいた
のだが

ね？

カズ君
まだできる？

予想外の言葉が
でてきて俺は
ビククリした

へ？

言ったでしょ？
今日一日
君の彼女だよ？



この時の俺は
30代女性の性欲の
強さを知らなかった

どお？
これで挿入れる
場所分かる？



そうやって彼女は
挿入しやすいように
マンコを上げたポーズを
取るのだが

それがエロ過ぎて
俺はすぐさま
ギンギンに
フル勃起した

そうして
戸惑いながらも
何とか挿入
できた俺は

のっけから全力で
ピストンした

いきなり
激しっ…♡

…♡♡

セ…ン

正常位に比べ
腰が動かし
易いのも
あったが

ハ…

ハ…

とある理由で
俺はバックが
めちやくちや
好きになった
その理由とは

この体勢だと
ママさんのアナルが
丸見えになるからである

ガンガン突いていくと
肛門がヒクヒク開いて
非常にエロかった

そして俺は一瞬怒られるかとも思ったが

調子に乗って
更にピストンを
強めた

あーっ

びんびん

くっ...っ

いいよおじっ…♡

カズくん
上手っ…♡

—と言ってくれたので
俺は少し安堵した

暫くして
イキそうになった俺は

ラストスパートをかける

そうして
激しいピストンの末
俺は…

本日2回目の
絶頂を迎えた

あーん

最初のセックスは
訳の分からぬ
まま終わって
しまったが

ハッ:

ハッ:

2回目で初めて
俺は達成感
の様なものを
感じたのだった

そしてチンポを
引き抜くと

ズルッ...
ニッ
セッ

ママさんの身体は
大きく一回
ビクッと跳ねた

そうしてる内に
ユウスケが帰る
時間が
迫ってきてしまう

体力的には
まだまだ余裕が
あったが
この日のセックスは
これで終了した

その後2人で
入念に証拠隠滅をして

ユウスケが帰ってくる前に
俺は帰宅する事になった

カズ君
じゃあね♡

また
いらっしやい♡

そしてその帰り際——

じゃあ

失礼します
……

——と

ママさんは
言ってくれたが

それは息子の
友達としてだろうな
と俺はそう思った





そして
翌日――



昨晚から一睡も
していなかった俺は

授業中もただ一人
悶々と考え事を
していた



そんな中

おゝい
カズ

心配して声を
かけてくれたのが
西村だった

お：おう
ユースケ

大丈夫？

具合悪いなら
保健室行くか？

友人の心遣いには
感謝したものの

いや平気平気
唯の寝不足
なんだわ

？

ならいいんだけど……

ちよつとモンモン
やり過ぎてよ

何故だかその時俺は
西村の顔を見れなかった

結局その日も

カズ

俺は散々悩んだ挙句
自分の性欲に負け

うう……
押ししてしまった

俺は
馬鹿だ……

性懲りも無く
また西村の家に来てしまった

そして——

はい

あ

あ……アハハ……♡

また
来ちゃいました……♡

冷たくあしらわれたら
帰ろう……

うん
いいよ

おいで
おいで♡

——とこっちが拍子抜け
するぐらいあっさり
家へ上げてくれた

何か
テンション
高くね？

前からママさん
こんなだっけ？

そしてソファに
座るなり

ね？
私の事
本当に好きなの？

へ？

ウツじゃない？

——としつこい位
訊いてきたので

ウ：
嘘じゃないツス！

俺あ本当に
ママさんの事が
大好きっス！

——とアホ丸出し
の顔でそう答えた

そっか
そっか
♡

！？

ママさんの不意打ちのキスで
ビビりまくる俺

チュ…♡

皆に内緒にするなら
もうちよつとだけ
付き合ってもイイヨ♡

後で聞いた話によると
ママさんは俺のデカチンポに
ハマったらしく俺が来るのを
内心心待ちにしてたらしい

それから2人は
昨日の様に
シャワーを浴び

再びママさんの
部屋でする事
になった

その日初めて
口でシてもらえる事になった

そして

まじまじと
俺のデカチンポを見る
ママさん

うは……
やっぱ大っき……

最初ママさんは
軽く竿をシゴキ

亀頭の部分を
チロチロと
舌で刺激する

そして裏スジの部分
をうっとりとした表情で
舐め回した

初めてのフェラは気持ち良過ぎて
カウパーが出まくりだった

長年こんな状況を
夢見てきたハズなのに

びりびり…

スゲ…

実際にそうなってみると
あまりにも現実感が無く
俺の感情はずっと
フワフワしていた

本当に……
カズ君の
おちんちん……

固くて……
太い……

オ……

こんなスゴイのが……
私の中に入ると思うだけで
……

アツコが疼いて……

どんどんエッチな
気分になっちゃおう……

私は……

しばらくして彼女は
俺のチンポを一気に頬張ると



激しく頭を上下させ
口内で亀頭をシゴいた



ママさんのフェラは
非常にイヤらしい
音を立てながら



段々と速く
なっていくた

うあっ……

やっ……

ああ……

すいませんっ……
俺もうっ……

せん……

この刺激は
先日まで童貞だった
俺には強すぎて

あっという間に果て

ッ…ッ…ッ

グ

ニ

ッ

キ

ママさんの口内に
思い切り精液を
ブチまけてしまった

たまらずせき込む
ママさんに

ス…
スイマセン…!!

ゴホッ

だ…
大丈夫…

マジで
ゴメンなさいッ!

俺は超焦って
何度も謝り倒した

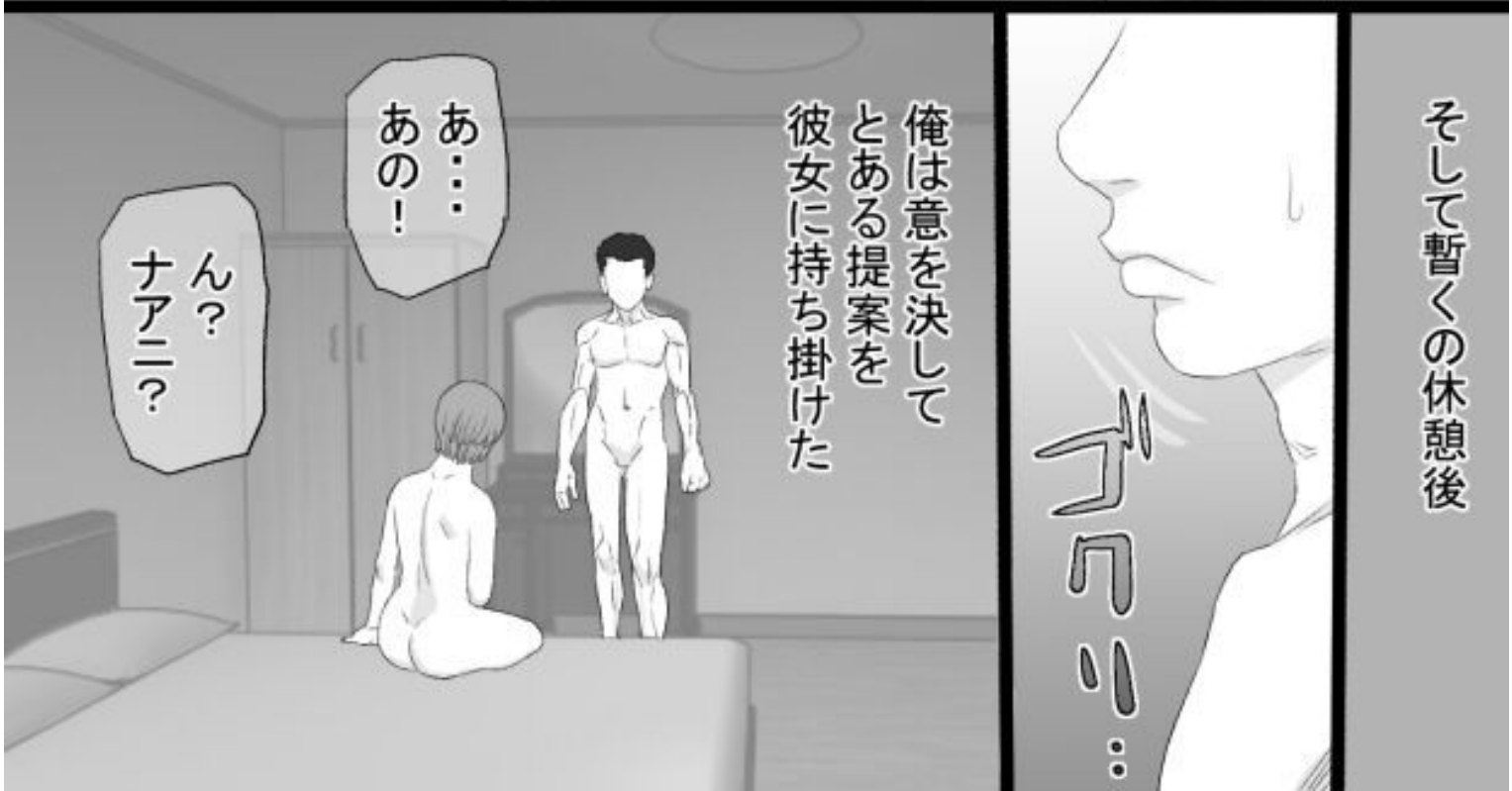
そして暫くの休憩後

ゴクハ…

俺は意を決して
とある提案を
彼女に持ち掛けた

あ…
あの!

ん?
ナアニ?



ママさんの
マンコ

もう一回
じっくり
見させて
下さい！

オナシヤス！



——と最高に
頭の悪いお願いをした

ええ

……？

何か改めて
お願いされると

……
すごい
恥ずかしいけど

ママさんは笑いながら
若干恥ずかしそうに
アソコを見せてくれた

ま……
いっか……

も……
しょうがないな……

カズくん
のエッチ♡

最初の時は
全然見る余裕が
無かったが

うおおお……

その時初めて
ママさんの女性器を
じっくり見る事が
できたのだった

毒

うわ……
エロ……

ママさんの陰毛濃い目の
マンコはすでに
ヌラヌラ愛液で光っており
非常にエロかった

俺は徹夜して
ネットで調べた

ハウトゥーセックス
に従います
クリの皮を剥ぎ

あ……

せつ……

愛液を絡ませた
指で

クリとヒダの部分
を
優しくなぞり

あ
カズ君……上手♡

い……

一息ついた所で

クリを集中的に
責めた

あ……
これ気持ち良い……♡

せつ……





あ……♡

ダメっ……♡
だからっ……♡

口はちよっと
恥ずかしいって……

せりっ♡



彼女は軽く嫌がったが
俺はお構いなしに
クンニし続けた

興奮しすぎて
自分でも舐めたい欲求を
抑える事が
できなくなっていた

せりっ♡



マンコから本気汁が
更に溢れてくる

それにつれて彼女の
反応も激しくなっていた

ぐっ♡

ズルル♡

ズルル♡

こんな息子と
同い年の子に……

ッ……ッ

イカされるなん……て

バクバク



俺はクンニで
ママさんを絶頂させた

ん
ク
ン
ニ
ッ



絶頂して大きく
ビクっとなった後

せのっ♡

しばらく彼女は
小刻みに震え
その余韻に浸っていた

せのっ♡

ウソでしょ…?
本当にイっちゃった…

旦那
あの人のエッチでも
あんまり
いった事ないのに…

後で聞いた話によると
ママさんが絶頂したのは
5、6年ぶりらしかった

それから冷静になって
我に返った俺は

すみません
やり過ぎ
ましたっ！

ガバ

無理やりクンニしたことを
土下座で詫びた

すると

俺の頭をポンと軽く叩き

も〜

しょうがないな〜♡

笑いながら許してくれた

ていうかカズ君

おちんちんスゴイ事なってるね♡

彼女の言う通り俺のチンポはガツチガチになっていた

それからママさんが俺用に買ってくれた大きめのゴムを着け

本番をする時を迎える

今日はママさんが上になり

主導権を彼女が握る事になった

すー…

びりびり

さっき出したのに
もうカチカチ…

あ…あ…
この入り口を
広げられる感じ

あの人と
全然違う…

ハ…

ハ…

挿入するといきなり射精してしまう
程の快感がほとばしる

びりびり

ヤッ…バ

入っ…た…

相変わらず彼女の膣内は
トロットロにほぐれていて熱かった

ママさんはチンポを
根元まで挿入すると

ゴイ

ゴイ

腰をゆっくり
グラインド
し始めた

ママさん曰く俺のチンポは
彼女とかなり相性が良いらしく

膣内をゴリゴリ掻き回される
のがスゲー気持ちいいそうだ

また俺にとっても
彼女の膣内は

マ・ママさん
もうちよい
ゆっくり……

あ：
あ：

相性が良過ぎたので
手加減する様に懇願する

一方的にイカ
されるのに

クツン

何とか
抵抗した
かった俺は

せ
く
せ

あっ……!?

一矢報いるために
クリを責める事にした

あ
あ
あ

あ
あ
あ

どうだっ!?

俺は
クリを責める
のと同時に

腰を必死に
下から突き上げる



そしてー

あー

あー

あー

あー

ダメ...

また私...

ほぼ2人同時に
絶頂した

うあー

せー

いくっっっ♡

あー

あー

あー

あー

それからしばらく
俺のたつての希望で

あゝ……
幸せやゝ♡

ママさんと恋人の様に
密着してベッドの上で
座った

……

カズ君
本当にエッチ
上手いよね

2回もイッたなんて
私初めてだよ

そ……
そーなんすか？

うん これだけ
上手かったら
女の子なんて

すぐ
メロメロに
なっちゃうよ

そしたらもう
私みたいな
オバさんは
相手されなくなるん
だろゝなゝ

他の女の子に
興味無いツスよ

俺あ
ママさんが
良いんす

……!

キョーン……

カズ君……

俺としては
本心を言っただけ
なんだが

ありがとう♡

お世辞でも
嬉しい♡

ママさんには
喜んでもらえたようだ

チュ...♡

こうして再び
俺達は恋人の様に
互いの舌を貪った

チュ...♡

ママさんとのキスは
脳みそが蕩ける程
気持ち良かった

チュ...♡

もう
復活したんだ♡

早い♡

俺のチンポは
あつという間に
カチンコチンに
なった

あ

すると

あ

……
まだ少し時間
あるし……
もう一回
いっとく？

ママさんの
その素敵な提案に
俺は2つ返事で
オーケーした

こうして
その日最後のセックスが
始まったのだった



俺はこれで金玉に残った
精子を全て吐き出すべく

スゴ……♡

はなから全力で
ピストンした

まだこんな
激しくできるんだ……♡

パコパコ♡

どうしよう…？

若い子のエッチが
こんなにスゴイなんて…

はあ…
せつ

私…本当に
ハマっちゃうかも…

そうして俺が
無我夢中で
腰を振っていると

あ…

せつ

あ…

ね…？

キ…ス…

キスして？♡

——とママさんから
キスのおねだりがあった

なので俺は
ママさんの
要望通りに
彼女と舌を
絡ませる

そして同時に
腰のピストンも
激しくした

ッ：あゝ

んんん

チュ...

チュ...

頭がおかしく
なりそうな位
刺激的で
気持ち良かった

ピストン
しながらの
ディープキスは

ニブル
ニブル...

そして身も心も
最高潮に達する直前に



カズ君っ…

カズミツ…
カズミって
呼んで…？

——とまたもや
ママさんにおねだり
されてしまう

どうやら彼女は
気分が盛り上がると
まるで恋人の様に
下の名前で呼んで欲しい
欲求が生まれる様だ



何故だか
その要求に
俺は

無性にママさん
の事を
愛おしく
感じてしまった



少し途惑ったが俺は
ママさんの名前を連呼する

カスミっ……

カスミっ……

カズ君っ……♡

ゾクゾク……♡

限界が近かったので
全力でピストンし
そして——

カスミっ……

カスミっ……

カズ君っ……♡



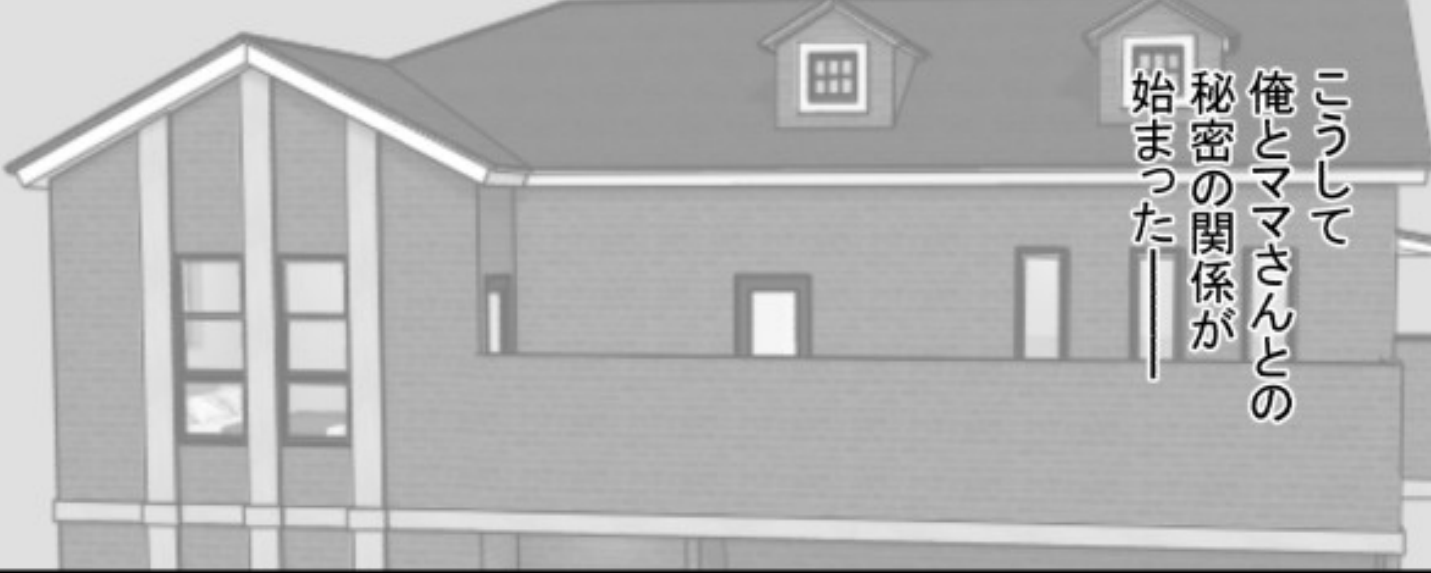
絶頂の余韻はしばらく続き

フッ...♡
フッ...♡
2人でこうして
抱き合っていた


彼女の膣から
チンポを引き抜くと

滅茶苦茶濃くて
大量の精子が
溜まっていた

3回目の射精にも
関わらず
俺のコンドームには




こうして
俺とママさんとの
秘密の関係が
始まった――



俺が西村の
そしてママさんが
旦那さんの
スケジュールを

キツチリ把握し
二人の関係は誰にもバレずに
俺が進学してからも続いた



2人の関係は勿論
セックスのプレイも
段々と濃くなっていった
のだが

その時の話は
また次の機会に……

続く

<番外編> 3か月後の2人

ちよっ……

カズ君
お茶零れちやう
から……

もう2週間も
会えてないんす
から

しよーがないじゃ
ないすか
テスト期間中で

ええ……

それに
ホラ

その間オナ禁して
チンコバッキバキ
なんすよ

わ……
分かったからっ……

じゃあ
もうシャワーに
……





スツゲ♡

口では嫌がってたけど本当はチンポ欲しかったんでしょ？w

ねえ？

ママさん
どーなんすか？w

あぁ

ママさんの膣内
めっちゃトロトロ
じゃないすか♡

もろ…
最近私が
イカされ
まくってるから

カズ君完全に
調子のってる…

後でちよっと
シメとかないと…
でも悔しいけど

やっぱり
カズくんのおちんちん

滅茶苦茶
気持ちイイ♡

あ…

コメ…

くっ…

ママさん

俺…もう…

あ…やだ

…

私も2週間ぶり
だからもう…



すみません
調子のりました

イダダダ
ダダ...

私待ってって
言ったよね？

カズ君...



こうして俺は
調子に乗った
罰として
鉄拳制裁を
喰らった 終



え？



は〜

やっぱ
ママさん最高♡

次はお掃除
フェラでも...